



琵琶湖中央病院内 “腎・高血圧センター” について

日本人の死亡原因で、間接的な要因を含めて統計解析をすると、男性では喫煙、高血圧、飲酒、女性では高血圧、喫煙、運動不足がそれぞれ 3 大要因になっています。世界的に禁煙キャンペーンがなされている理由がここにあります。次ぎに突出して高く評価されているのが高血圧です。高血圧の持続は、全身の血管の老化（動脈硬化）を招いて大事な脳・心臓・腎臓などの臓器の働きを障害し、死に至らせています。しかも、これらの重要な臓器が障害されると、認知症、心不全、腎不全とまで行かないまでも機能が低下することで、本来の健康な状態でなく、不自由なままで人生の終末期を過ごさなくてはならなくなるのです。つまり、高血圧のコントロールが日本国民の健康を維持する上で最も重要とすることができます。

診療の実態を調査した結果によると、50 歳代の男性で 63% (510 万人)、70 歳代で 80% (470 万人) の人が高血圧であり、そのうち治療を受けている人は 50 歳代で 43%、70 歳代で 65% 程度に止まっています。しかも、その中で 140/90mmHg 未満に良好にコントロールされている人の割合はほんの 30% 程度なのです。

高血圧の発症要因が明らかになって、現在、実際に使用しています降圧薬は、いずれも高血圧の原因に近い部分に効いているので、ほぼ根本的な治療法になっています。つまり、塩分制限、生野菜などからのカリウム補給、定期的な運動は治療の基本として、加えて適正な降圧薬による治療を行えば、脳卒中、心筋梗塞、腎不全などの恐ろしい合併症を予防して健康状態を維持し延命効果を発揮するのです。



また、高血圧は「お年寄りの病気」として、検診で若いうちに高血圧を指摘されても治療を受けない人が多いのが実態です。治療を始める高齢期になると、すでに動脈硬化が形成されているので、その治療効果が限定されてしまいます。その点、若いうちに治療を開始すれば動脈硬化のリスクを減らすことで治療効果が高いのです。

さらに、高齢者の中には動脈硬化病変が進行しているために、降圧目標を少し高めに設定しなくてはならない例もありますが、個人差が多いので年齢だけでは判断できません。そこで、専門的な立場での診断が必要になるのです。また、高齢者では、大動脈の動脈硬化で腎臓への入り口が塞がりかけるのが原因で起きる高血圧があって、その際には病態によって最も使用頻度が高い降圧薬を使うことで病状を悪化させる例もあるので慎重に診断する必要があります。

このように、高血圧および高血圧と関連深い腎臓病は症例数の多い病気ですが、食事（栄養）や服薬時の注意点などが多数あるので、専門医、看護師、薬剤師、栄養士、などがチームになって診療することが必要なのです。そこで、当院では、「琵琶湖中央病院内腎・高血圧センター」として、腎臓／高血圧診療部門に特化した診療チーム体制を構築しています。高血圧だけでなく、慢性腎臓病の患者さんの診療を専門的に行っています。

琵琶湖中央病院 院長 高橋 伯夫
(循環器専門医、腎臓専門医・指導医、内分泌・代謝専門医・指導医、高血圧専門医・指導医)

高血圧についてお気軽にご相談下さい
院長外来：毎週火曜日・木曜日
午前 9 時～12 時